

現代未聞の 改革を

学院、山桜会、校友会の トップからのメッセージ

少子化とグローバル化が進展するなか「現代未聞」の改革を推し進める追手門学院。
今後はより一層学院、山桜会、校友会が連携し、相互に情報を共有し総合学園としての真価を発揮していきます。



「結束の先に見据えるもの」

このたび、学院卒業生向け広報誌『mon』統合版がついに完成しました。

統合の狙いは、総合学園追手門学院のすべての卒業生に広範囲な学院情報を提供させていただくこと。これにより、母校とステークホルダーとの結束を強化することにあります。同時に、大学校友会ならびに校友会山桜会の相互の同窓会活動がそれぞれの卒業生に認識されることによって、両校友会の連携プレーがさらに促進される効果が期待されます。

私学である追手門学院の発展は、すべてのステークホルダーのご支援とご協力にかかっています。学院は、2018年に創立130周年を迎えます。昨年は、大学創立50周年、校友会山桜会100周年の年でした。学院情報、そして教学改革の姿をステークホルダーのみなさんに共有していただき、さらなる発展につなげていきたいと思ひます。2019年4月には、茨木市のJR新駅近くに、新キャンパスを開設する予定です。これにより大学は2キャンパス体制、中高は全面移転を計画しています。新キャンパスでは、他の大学に先んじて、「学生の新しい主体的な学び」を実践していきたいと思ひます。学院の先進的な取り組みは、『mon』を通じ、すべての卒業生に情報提供させていただきます。

学校法人 追手門学院
理事長 追手門学院大学学長 川原俊明
(追手門学院小学校71期・追手門学院大手前中・高等学校14期)

「連鎖をつなぐ連携」

学校の評価は、学校が人を育てて有為な人を社会に送り出し、この人が社会で評価され、さらには母校が評価されるという連鎖のなかで高まっていくものです。大阪偕行社附属小学校として開校した本校が、130年の間に、中学、高校、大学、大学院と創立し、さらには幼稚園、認定子ども園をも創立できたのは、ひとえに、長年にわたる学院の教育と卒業生の活動の連鎖の賜です。このような長い連鎖のお陰で山桜会も昨年100周年を迎えることができましたし、卒業生が100年以上にわたって活動を続けてきたから学院の今もあると自負しております。

ただ、学院と卒業生の連鎖は自然に実現できるものではありません。殊に少子化、教育のグローバル化が加速度的に進んでいる現代にあっては、これまで以上に両者の連携を深めていかねば、次の150年、200年と連鎖をつないでいくことはできません。そのためには、学院と卒業生の連携のための「血液」ともいべき情報をすみずみまで行き渡らせることが不可欠です。それぞれの活動を知ることなくして連携の深化はあり得ないからです。今回の3誌の統合が、このような連携のための新たな一歩になることを願ってやみません。

追手門学院校友会 山桜会
会長 平泉 憲一
(追手門学院高等学校 25期)

「130年。さらなる飛躍へ」

2018年追手門学院は創立130周年を迎えます。130年の間、社会で活躍する多くの卒業生を輩出し、まさに社会有為の人材を世に送り続けてきたのが我々の母校追手門学院です。130周年を迎えて、さらなる飛躍を遂げるためには、母校を取り巻く多くの追手門関係者が心一つにして母校を支援してゆく必要があります。とりわけ山桜会と大学校友会の会員は、その中心となるべき存在かと思ひます。

学院広報誌『mon』の発刊にあたって、二つの卒業生組織が参画して学院との三者で発行することになりました。これまで大学校友会会員には大学の、山桜会会員には小中高の情報しか送られていませんでしたが、この統合誌で、追手門学院のすべての情報を卒業生全体で共有できることとなります。この広報誌の発刊を一つの起爆剤として、学院創立130周年記念事業を成功させたいと思ひます。2019年に予定されている新キャンパスの開校は学院130周年事業の核となるものです。両校友会が力を合わせて、この事業が成功するよう支援したいと思ひますので、会員のみなさまもよろしくお願ひいたします。

追手門学院大学 校友会
会長 林田 隆行
(追手門学院大学 2期)

OTEMON
GAKUIN
130th
anniv.
in 2018

